

## 開会メッセージ

一般財団法人全国山の日協議会  
会長 谷垣 禎一

皆さん、こんにちは、私は一般財団法人全国山の日協議会会長の谷垣禎一です。

今日は国際山岳年+20シンポジウムin黒部に大勢の方に参加をいただき、心から御礼を申し上げます。

今を去ることちょうど20年、国連によりまして2002年が国際山岳年と提唱され、世界各国の政府、機関、NGO、および民間セクターに対して、「持続可能な山岳開発」の重要性に対する認識を高めることを目的に、この分野への自発的な貢献を果たすこと求めました。

その10年後の2012年、日本では、日本大学、北海道大学の研究者、山岳関連団体が中心となって構成された実行委員会が、「国際山岳年+10シンポジウム」という研究集会を開催し、「みんなで山を考えよう」のサブテーマのもと、山岳地域の生活者、氷河決壊による洪水の脅威、山と自然の安全と防災、自然保護などについて熱心な議論がおこなわれ、それは2014年の国民の祝日「山の日」の制定へと大きく繋がったと存じます。

さて、国連による「国際山岳年」提唱から20年目となる本年12月、一般財団法人全国山の日協議会によって「国際山岳年+20シンポジウム」がここ富山県黒部市で開催されることとなりました。

この20年間の山と自然と人間に関わる環境の変化を踏まえ、5つのセッションに分かれて、山小屋と登山道の課題、山岳地の災害と復興の経緯、自然資源の保全、山岳ジオパークの現状、観光利用拡大による注意点など、各分野の研究者、実務者による報告と討論が、今日明日の二日間に渡っておこなわれます。

このたびのシンポジウムで現在私たちが抱える課題の抽出がおこなわれ、その解決が模索され、この地球上の山、自然、そして人間の、持続可能な成長の一助となることを期待したいと思います。

本日はこの分野にご関心をお持ちの皆様、熱心に取り組まれている研究者の皆様、あるいは北陸地方のみならず遠方からお出でをいただきまして心から喜んでおります。

皆様にとりましてこのシンポジウムでの成果が生活体験のなかに組み込まれ、「山と自然に親しむ機会」が世界のいたるところで体感できる、そういう未来に繋がりますことを願ってやみません。

これからも全国山の日協議会は、「山の日」の意義の浸透に取組み、教育、健康、環境、経済の観点から、たくましい子どもたちの育成、地域振興、森林・水資源の保全、山と自然の安全と防災など、多くの課題解決に向けてご意見をいただき、情報の共有を推進してまいります。引き続きご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年12月10日